三次看護専門学校　授業要項　実務経験のある教員等による授業

科　目	看護の基本となる実習			担当講師	各実習担当教員
学　科　名	学　年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	１年	Ａ・Ｂ	２(90)	実習	令和６年前期/後期

科目目標
１．看護の対象である人の療養環境と病院内で行われる様々な場での看護の実際を知る。
２．看護の対象である人を理解するために生活背景や入院生活、病気体験の影響を知る。コミュニケーションを活用し、原理原則に基づいた看護に共通する援助技術の実施と評価を行う。
３．看護の対象である人にとっての日常生活援助の必要性を理解し、対象者の状況に合わせた日常生活援助を実施し評価する。

授業概要
病棟看護師に同行し看護の実際を知る。病棟へ実習に行き、受け持ち患者を１名担当し、その人との関わりをとおして学ぶ。

卒業時到達目標との関連
DP- ①・②・③・④・５・⑥・７・８・９・⑩・11・12

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	１・２回　病院内での看護の実際を知る実習 1　地域の特徴に合わせた病院の役割と機能が分かる。 2　看護の対象である人の療養環境と、病棟で行われる看護の実際を知る。
2	9	1　病院内の様々な場での看護の実際を知る。 2　看護師と行動を共にしたことで分かった看護師の役割と看護するうえで大切なことを考える。
3	9	３～１０回　コミュニケーションと日常生活援助実習 1　コミュニケーション技法を活用した、患者に合わせたコミュニケーション。 2　原理原則に基づいた看護に共通する援助技術の実施と評価。
4	9	
5	9	
6	9	
7	9	1　対象の日常生活の援助の必要性の理解 2　対象の状況に合せた日常生活援助の実施
8	9	
9	9	
10	9	

【成績評価の方法】
実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項 実務経験のある教員による授業

科　目	看護過程の展開			担当講師	各実習担当教員
学　科　名	学　年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	２年	実習Ｇ	2 (65)	実習	令和６年前期

科目目標
情報収集、アセスメント、問題点の明確化、計画，実施、評価という看護過程の展開の一連のステップを展開しながら受持ち患者の看護を通じて実践する。

授業概要
病棟へ実習に行き、受け持ち患者を１名担当し、その人との関わりをとおして学ぶ。

卒業時到達目標との関連
DP- ①・②・③・④・⑤・⑥・７・８・９・10・11・⑫

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	○実習1日目　実習する病棟の理解 ○実習１～4回　受け持ち患者を通じて、看護過程の一連のステップを行う。 1　情報収集とアセスメント 2　問題点の明確化 3　計画 4　実施 5　評価
2	9	
3	9	
4	9	
5	2	学内実習 1　中間評価 2　看護過程の展開ステップを振り返る
6	9	○実習6～7回　１～4回目の実習から受け持ち患者の看護について評価し、看護を行う。 1　情報収集とアセスメント 2　問題点の明確化 3　計画 4　実施 5　評価 ○実習最終日には、グループ各メンバーの学びを共有する。
7	9	
8	9	

【成績評価の方法】
実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項　実務経験のある教員等による授業科目

科目	地域・在宅での訪問看護の実際			担当講師	専任教員
学科名	学　年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	３年	Ａ・Ｂ 各グループ	２ (90)	実習	令和６年度前期・後期

科目目標

地域で療養する対象および家族を理解し、在宅看護を実践する基礎的な能力を養う。在宅療養を支える地域包括ケアシステムの実際を理解できる。

授業概要

訪問看護ステーションに６日間行き、訪問看護師に同行し在宅で療養生活する対象及び家族の理解や訪問看護の実際を学ぶ。また、地域包括支援センター、地域連携室、居宅介護支援事業所へ１日ずつ行き、多職種に同行し、多職種連携・協同関連の会議への参加を通して、各機関・各職種の担う役割について理解する。

卒業時到達目標との関連

DP-　①・２・③・④・⑤・⑥・⑦・８・９・10・⑪・⑫

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	臨地実習　地域包括支援センター １．地域包括支援センターの理解 １）地域包括センターの役割 ①包括的支援事業 ②介護予防・日常生活支援総合事業 ③各職種の役割 ２）多職種協働による地域支援ネットワークの構築の実際 ３）地域ケア会議による個別事例の充実と地域課題の解決の実際
2	9	臨地実習　地域連携室 １．地域連携室の役割 ①入・退院支援の実際 ②各職種の役割 ２．病院と地域サービス提供者との連携の実際 ３．病院と病院、病院と介護施設との連携の実際
3	9	臨地実習　居宅介護支援事業所 １．居宅介護支援事業所の役割 ２．地域で暮らす要介護者及び家族のケアマネジメントの実際 ３．地域と病院・施設との連携の実際
4	9	学内実習 １．１週目の学びの共有 ２．各訪問看護ステーションでのオリエンテーション・情報収集
5	9	臨地実習：訪問看護ステーション １．訪問看護の役割・機能 ２．訪問看護の実際 ３．地域で在宅療養をする対象と家族の理解 ４．地域包括ケアシステムにおける看護師の役割
6	9	
7	9	
8	9	
9	9	
10	9	

【成績評価の方法】

■　ルーブリック評価表

三次看護専門学校　授業要項　実務経験のある教員等による授業科目

科目	地域・在宅での療養生活			担当講師	専任教員
学科名	学　年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	３年	Ａ・Ｂ 各グループ	1 (45)	実習	令和６年度前期・後期

科目目標

健康障害を持ちながら「生活者」として地域で暮らす人とその家族の理解を深め、療養者が暮らす地域の環境や対象の療養生活を支える社会資源について知り、在宅療養に必要とされる看護を展開できる。

授業概要

病院実習で受け持ち、訪問の了承が得られた対象１名の自宅を訪問する。入院中と在宅での療養生活の違いを捉え、地域で暮らす対象とその家族の療養生活を理解する。
また地域調査を行い、対象が暮らす地域の環境や社会資源について調査し、地域で療養生活を送る人を支える看護の役割や社会資源について理解する。

卒業時到達目標との関連

DP-　①・２・③・④・⑤・⑥・⑦・８・９・10・⑪・⑫

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	１．地域で療養生活を送る対象と家族の理解 １）観察内容・観察方法の抽出 ２）アセスメント
2	9	２．療養生活に影響する地域環境と特徴の理解
3	9	３．健康障害に応じた生活の仕方の工夫
4	9	４．病棟生活から家庭生活への継続 ５．訪問看護計画の実践 ６．地域特性をふまえた療養者・家族への支援
5	9	７．実習まとめ １）地域で療養する療養者・家族の療養生活の理解 ２）地域で療養生活を送る人の支える医療や看護の役割

【成績評価の方法】

■　ルーブリック評価表

三次看護専門学校　授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	慢性期・終末期にある患者の看護			担当講師	専任教員
学科名	学　年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	２年	実習G	2 (90)	実習	令和６年度後期

科目目標

１．慢性疾患のある患者の病みの軌跡や加齢による心身の変化を理解をする。あるいは終末期にある患者の全人的苦痛や加齢による心身の変化を理解する。
２．検査や治療、療養を継続していくための支援や多職種連携についての理解をする。
３．慢性期における機能の障害やこれまでの経過などセルフマネジメントに影響する要素を含めながら看護を考える。あるいは、終末期における機能の障害や全人的苦痛をもたらしている原因、これまでの経過や患者の思いを含めながら意思決定支援について必要な看護を考え実施する。
４．治療的コミュニケーションの活用し、慢性期における自己効力感を維持・向上できるような支援について、あるいは終末期における生命の危機、苦悩・不安を緩和するための支援について考え、実施する。
５．機能の障害に伴う症状の観察や判断を行い、症状を緩和できるような日常生活援助を実施する。
６．外来で治療を受けながら生活する患者、家族を通して外来看護の役割を理解する。

授業概要

１～９回目は成人期、老年期にある慢性疾患患者あるいは終末期にある患者を受け持ち、その人との関わりをとおして慢性期あるいは終末期にある人の看護の実際について学ぶ。その内の1日は外来での実習を通し、地域で治療を受けながら生活する人への看護の役割について知る。10回目は学内実習として、見学実習での内容の整理を行い、地域で治療を受けながら生活するために必要なことや看護の役割について学びを整理、共有する機会とする。

卒業時到達目標との関連

DP-　①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・⑧・９・⑩・11・⑫

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	オリエンテーション、カルテからの情報収集、患者とのコミュニケーション １　地域での病院の役割、病棟の特徴、患者の療養環境について知る。 ２　看護の対象である人の概要を知る。
2	9	２~３回　カルテや患者とのコミュニケーションを通しての情報収集、全体像の整理とアセスメントを行い、看護の方向性を見出す。 １　看護の対象である人の全体像を明らかにし、ニードの充足、未充足の判断をする。 ２　主要なニードの情報整理、分析を行い、看護の方向性を明確化する。 ３　看護の対象である人の全体像について発表を行い、グループでの共有、意見交換を行う。（全体像の発表） ４　看護の方向性に基づいた看護実践を行い、評価、修正を行う。
3	9	
4	9	
5	9	５～９回　カルテや患者との治療的コミュニケーションを通して情報の追加、アセスメント、看護計画立案を行い、個別性のある看護の実践を行う。 １　治療的コミュニケーションを活用し、慢性期では、自己効力感を維持・向上しながらセルフケアを行えるような支援を実施し、終末期では、生命の危機や苦悩・不安の緩和や意思決定への支援を実施する。 ２　カンファレンスを行い、個別性にあった看護を考え、実施する。（カンファレンスの実施） ３　実践した看護の評価を行い、看護計画の追加、修正を行う。 ４　受け持ち患者を通しての対象理解、慢性期あるいは終末期における看護の役割について整理、学びの共有を行う。（学びの会の実施）
6	9	
7	9	
8	9	
9	9	
10	9	（外来実習：１～９回目のうちのいずれか１日で実施する） １　外来で治療を受けながら生活する患者、家族を通して外来看護の役割を知る（透析室、外来化学療法室、心不全外来、緩和ケア外来、フットケア・浮腫外来、ストマ外来、乳腺外来など）

【成績評価の方法】
実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	急性期・回復期にある患者の看護			担当講師	専任教員
学科名	学　年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	３年	実習G	2 (90)	実習	令和６年度前期、後期

科目目標

１．急性期～回復期にある患者の心身の変化を理解し、改善しようと寄り添い関わることができる。
２．患者に行われている検査や治療、在宅支援など一連の学習をし、積極的に経験できる。
３.患者に生じている生命危機や苦痛、苦悩、生活への障害、生活の再構築に影響する要素からアセスメント師必要な看護を導き出すことができる。
４．患者に生じた変化や突発的な症状の出現に対し、その日その場に応じた判断ができる。
５．侵襲による生体反応や合併症、機能の回復過程や二次的障害の特徴を捉えるための継続的な観察ができる。
６．苦痛の緩和や機能の回復、合併症の予防を促しながらそれに応じた日常生活援助を実施できる。
７．検査や治療を受ける患者に対し、迅速な対処や処置を安全・安楽に実施できるような援助ができる。
８．急性期～回復期にある患者の特徴が理解できる。
９．生命を脅かす疾病や病態、侵襲によって心身がどのように変化していくのか患者をとおして理解し、生活を構築していける人であるとわかる。
10.安定した病状管理や生活再構築のための支援とその役割が理解できる。

授業概要

成人期、老年期にある急性期、回復期にある患者を受け持ち、対象との関わりをとおして病期の時期に応じた看護の実際について学ぶ。

卒業時到達目標との関連

DP-　①・②・③・４・⑤・６・⑦・８・９・⑩・11・⑫

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	オリエンテーション、カルテからの情報収集、患者とのコミュニケーション １　地域での病院の役割、病棟の特徴、患者の療養環境について知る。 ２　看護の対象である人の概要を知る。
2	9	２~５回　カルテや患者とのコミュニケーションを通しての情報収集、全体像の整理とアセスメントを行い、看護の方向性を見出す。 １　看護の対象である人の全体像を明らかにし、ニードの充足、未充足の判断をする。 ２　主要なニードの情報整理、分析を行い、看護の方向性を明確化する。 ３　看護の対象である人の全体像、主要な未充足のニードについて発表を行い、グループでの共有、意見交換を行う。（全体像・主要な未充足のニードの発表） ４　看護の方向性に基づいた看護実践を行い、評価、修正を行う。
3	9	
4	9	
5	9	
6	9	６～10回　カルテや患者との治療的コミュニケーションを通して情報の追加、アセスメント、看護計画立案を行い、個別性のある看護の実践を行う。 １　生命の危機や苦痛、苦悩、生活への障害を軽減させ、生活の再構築に向け必要な看護を導き出し実践する。 ２　カンファレンスを行い、個別性にあった看護を考え、実施する。（カンファレンスの実施） ３　実践した看護の評価を行い、看護計画の追加、修正を行う。 ４　受け持ち患者を通しての対象理解、急性期・回復期における看護の役割について整理、学びの共有を行う。（学びの会の実施）
7	9	
8	9	
9	9	
10	9	

【成績評価の方法】
実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	クリティカルな状況にある患者の看護			担当講師	専任教員
学科名	学　年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	３年	実習G	1 (45)	実習	令和６年度前期

科目目標

１．クリティカルな状況にある人が抱える激しい苦痛や急激な心身の変化、生活の場などを理解する。
２．クリティカルな状況にある患者に対し、生命の危機的な状況や苦痛の緩和、機能の障害出現を予防するための看護やその看護の必要性について理解する。
３．患者の状態を捉えるために、起こりうる変化の予測をすることの必要性や、予測困難な状況出現時に必要な観察をすぐさま実施し、観察したことを用いながら迅速な判断をすることの重要性を理解することができる。
４．クリティカルな状況にある患者やその家族に対する看護師の役割について理解する。
５．クリティカルな状況にある人へ救急処置や集中的な治療を行うためにはその場にいる全ての人と連携することの必要性を理解することができる。

授業概要

１回目は学内実習とし、クリティカルな状況にある人に対し使用される医療機器や治療技術について調べ学習を行い、生命の危機的な状況にある人がどのような環境におかれているのかの理解を深める。また、モデル人形を使用し、観察、判断、対応についてを学ぶ。
2～5回目は手術室やICUなどクリティカルな状況にある人が治療を受けている場での実習を行う。そのうち2回分ずつ手術室とICUに分かれて実習を行う。

卒業時到達目標との関連

DP-　１・２・３・４・⑤・⑥・⑦・８・９・10・11・12

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	１　クリティカルな状況にある人に対して救急処置や集中的な治療を行うために使用される医療機器、ドレーンなどについての目的や注意すべき観察、取り扱い注意点を調べ学習する。 ２　フィジコやシナリオを用い、実際に正常、異常の判断を迅速に行うトレーニングや、異常な事柄が観察された場合の対応について考える。（グループワーク）
2	9	２~５回 手術室や、クリティカルな状況にある患者に関わる看護師に同行し、実際の看護場面や救急処置、集中的な治療が行われている場面を見学又は実践を通して学ぶ。 １　各部署でのオリエンテーションや同行実習を通してクリティカルな状況にある人の特徴や生活する環境について知る。 ２　実際に行われている看護場面や救急処置、集中的な治療について見学し、行われている事柄の目的や方法、注意すべき点を事前学習と照らし合わせ考えたり説明を受けることで理解する。 ３　目の前にいるクリティカルな状況にある人に対し、必要な観察項目を抽出し、実際に看護師と一緒に自分の計画にそって観察を行う。また、実際に観察したことの判断を看護師と一緒に行う。 ４　クリティカルな状況にある人の身体的な苦痛、精神的な不安、生活障害に対し、少しでも苦痛が緩和でき、生活ができるだけ整えられるような支援を考え（支援の必要性や目的について考え、具体的な方法について計画の立案）見学、または看護師と一緒に行う。　５ クリティカルな状況にある人に関わる他職種との連携の場についての実際を見学する。 ６　実習を通して、クリティカルな状況にある人に対する看護師の役割について整理する。（学びのレポート） ※４日のうち、手術室での見学実習２日、ＩＣＵなどでの見学実習２日、行う。
3	9	
4	9	
5	9	

【成績評価の方法】
実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項　実務経験のある教員等による授業科目

科　目	生活療養の場の高齢者の看護			担当講師	専任教員
学　科　名	学　年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	２年	A・B	２(75)	実習	令和６年度前期

科目目標
１．老年期の発達課題に向き合い人生の最終段階を生きる高齢者を関わりをとおして理解する。
２．高齢者の暮らしの場としての介護保険施設の役割を説明できる。
３．暮らしの場における看護と介護の連携・協同の実際から生活モデルの看護を考察する。
４．暮らしの場における健康管理と利用者のもてる力を活用した生活支援を考え実施する。
５．高齢者の尊厳とQOLを支える看護について考察する。
６．自己の高齢者観を表現できる。

授業概要
看護職・多職種よるケアの現場に同行し、施設を利用する高齢者の健康管理・生活管理など予防的な看護の体験をとおして、生活モデルの看護を学ぶ。施設利用者の日常生活に関わり、生活者としての高齢者理解を深める。交流機会をとおし加齢による身体・心理・社会的変化を観察し特徴に合わせたコミュニケーションをはかる。体験を振り返り自己の高齢者観を表現し共有する。

卒業時到達目標との関連
DP-　①・②・③・④・５・６・７・⑧・⑨・⑩・⑪・12

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	臨地実習 １　介護保険施設の理解 １）介護保険施設の役割 ２）暮らしの場である施設の特徴 ３）利用者の健康管理と暮らし方の支援
2	9	臨地実習 ２　暮らしの場である施設の実際を知る（シャドーイング） １）入所者の暮らし・通所利用者の活動 ２）健康管理 ３）多職種によるケアの実際 ３　施設を利用する高齢者の理解 １）コミュニケーションと観察 ２）ケースカンファレンス、職域別カンファレンスへの参加 ３）受け持ち利用者の情報収集
3	9	
4	9	
5	4	学内実習 １　中間評価 ２　暮らし方を尊重し、もてる力を活用する生活支援のあり方を振り返る
6	9	臨地実習 ３　受け持ち利用者の健康管理と日常生活支援
7	9	
8	9	
9	8	学内実習 老年看護学実習のまとめ １　自己の高齢者観　　２　高齢者の尊厳とQOLを支える看護

【成績評価の方法】
実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項　　実務経験のある教員等による授業科目

科　目	地域で生活する小児の看護			担当講師	専任教員
学　科　名	学　年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	２年	AB	１(45)	実習	令和６年度前期

科目目標
地域で生活する小児の健全な成長・発達の促進、健康の維持・増進のための援助の実際を知る。

授業概要
・乳幼児期にある小児の成長・発達の実際や成長・発達段階に応じた小児への関わり方について，
　保育の実際に参加したり、保育士のかかわりをみて学ぶ。
・地域における乳幼児保育を取り巻く環境や関連する施策、支援について学習する。

卒業時到達目標との関連
DP-　１・２・３・４・５・６・７・８・⑨・10・⑪・12

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	１学内実習（１日） １）地域の子育て支援の実際について，学習する。 ２）保育所の地域における役割を理解する。
2	9	２保育所実習（4日間） １）　成長・発達の特徴の理解や発達の評価 ２）　障害をもつ子どもの特徴の理解及び支援の実際 ３）　成長・発達を促すための保育の実際 ４）　安全教育・安全管理の実際
3	9	
4	9	
5	9	

【成績評価の方法】
実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項　　実務経験のある教員等による授業科目

科　目	健康障害のある小児の看護			担当講師	各実習担当教員
学　科　名	学　年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	３年	AB	１(45)	実習	令和６年年度前期・後期

科目目標

発達段階や健康段階に応じた子どもやその家族への看護を実践する基礎的能力を養う。
健康障害のある子どもとその家族に対して、発達段階を考慮した健康回復への援助ができる。

授業概要

小児病棟及び小児外来へ実習に行き、受け持ち患児やその家族との関わりをとおして学ぶ。

卒業時到達目標との関連

DP-　①・②・③・④・⑤・⑥・⑦・８・⑨・10・11・⑫

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	１　病棟・外来実習（５日間） １）　症状の観察と判断 ２）　成長・発達や家族に及ぼす影響の理解 ３）　健康回復の促進と苦痛症状の緩和への援助 ４）　発達段階に応じた安全・安楽な日常生活への援助 ５）　治療への主体的な参加を促すための援助 ６）　ストレスや不安に対する援助 ７）　外来診療における看護の実際
2	9	
3	9	
4	9	
5	9	

【成績評価の方法】

実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項　　実務経験のある教員等による授業

科目	母性看護学実習			担当講師	専任教員
学科名	学　年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	３年	実習 グループ	２ (75)	実習	令和６年度前期・後期

科目目標
妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者と家族の特徴を理解し、より健康的な生活を送り、親役割に適応するための看護を実践する基礎的な能力を養う。

授業概要
学内実習では、妊婦・産婦の事例（ペーパーペイシェント）から、特徴を理解し必要な看護を学ぶ。
病棟実習では、褥婦・新生児を受け持ち、特徴を理解し必要な看護を学ぶ。

卒業時到達目標との関連
DP-　①・②・３・４・５・⑥・７・８・⑨・10・11・12

回数	時間数	授　業　内　容
1	3	1　実習オリエンテーション 2　ロールプレイ 3　視聴覚教材での学習
2	9	4　妊婦・産婦の看護(学内実習) １）妊婦の看護 (1)正常な妊娠経過の観察・判断 (2)胎児の発育と健康状態の観察と判断 (3)妊婦の健康診査と診察介助 (4)妊婦に必要な日常生活指導 (5)親になるための準備教育 (6)妊娠期の異常と看護 (7)社会資源の活用 ２）産婦の看護 (1)産婦と胎児の健康状態・分娩経過の観察と判断 (2)産婦の心理状態 (3)産痛緩和への援助 (4)基本的ニードへの援助
3	9	
4	9	
5	9	
6	9	5　褥婦・新生児の看護（病棟実習） １）褥婦の看護 (1)産褥経過の観察と判断 (2)退行性変化への援助 (3)進行性変化への援助 (4)育児技術獲得への援助 (5)母子関係確立への援助 (6)社会資源の活用 ２）新生児の看護 (1)新生児の経過の観察と判断 (2)子宮外生活適応への援助
7	9	
8	9	
9	9	

【成績評価の方法】
■　実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項　　実務経験のある教員等による授業科目

科目	精神看護学実習 (精神に障害のある人の看護)			担当講師	専任教員
学科名	学　年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	３年	AB	２ (90)	臨地実習	令和６年度前期・後期

科目目標
精神に障害のある人をありのまま理解し、特徴に合わせた看護を実践するための基礎的能力を習得する。

授業概要
この実習では、コミュニケーション技術を駆使して患者と関わり、患者の持つ苦しみを少しでも理解しようとする過程で人間関係を築いていく。そして日々の関わりを丁寧に振り返り自己理解と他者理解を深める。精神の障害による生きにくさはありながらも、その人が主体となって社会の中でその人らしく生きていく支援を考え、障害された日常生活を整える看護を実践する。患者の健康部分に注目しながら自立性を引き出し高める看護を理解し、可能な範囲で実践する。

卒業時到達目標との関連
DP-　①・②・③・④・５・６・７・⑧・９・10・11・⑫

回数	時間数	授　業　内　容
１～６	各9時間	臨地実習 １　精神に障害のある人の理解 ２　精神症状と看護 ３　日常生活の障害と看護 ４　治療・検査と看護 ５　対人関係の振り返りを通した必要な看護 ６　治療的コミュニケーションを活用した援助
7	9時間	学内実習 １　プロセスレコードカンファレンスによる個人およびグループでの対人関係の振り返り ２　対象理解、看護計画の追加・修正
８～10	各9時間	臨地実習 １～６回同様 最終回はまとめの会を実施し、グループで学びを共有する。

【成績評価の方法】
実習評価表に基づき評価する。

三次看護専門学校　授業要項　実務経験のある教員等による授業

科　目	総合実習			担当講師	各実習担当教員
学　科　名	学　年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	３年	AB	２(90)	実習	令和６年度後期

科目目標
1.チームとして複数患者に看護を提供するために情報共有や協働していくことの必要性を体験を通して理解できる
2.多重課題の中での判断、優先順位の決定、さらに夜間の看護の特徴について体験を通して理解できる。
3.複数患者に対して、優先順位の決定をしながら質の保証のある看護を提供することができる。
4.チームで看護を行うためのリーダー・メンバー役割について理解し実践できる。
5.より良い看護を探求するためのカンファレンスのテーマを決定でき、チームで協働しながら運営できる。
7.病棟という組織における看護管理のあり方が説明できる。

授業概要
同行実習では看護師長、リーダー看護師、夜勤看護師に同行し、それぞれの役割や業務の実際を理解する。チームナーシングでは、学生チームで複数患者を受け持ち、チームで協働しながら看護を提供していくための準備や決められた業務内容の遂行、より質の高い看護の提供をするために必要な優先順位の決定、チームが協働していくために必要なリーダー、メンバーの役割について学ぶ。

卒業時到達目標との関連
DP-　１・②・３・４・⑤・⑥・７・８・９・⑩・11・⑫

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	１．同行実習 １）看護管理実習 看護管理の実際の理解 ２）リーダー同行 円滑に業務を遂行するために協力要請や、メンバー間の調整などリーダー役割の理解 ３）夜間同行 日勤から夜勤への引き継ぎや夜勤の業務内容、限られた人数の中での優先順位の考え方・看護の実際の理解。
2	9	
3	6	
4	7	２．チームナーシング １）情報収集 ２）翌日の１日の計画立案 ３）受け持ち患者の看護計画の立案
5	9	２．チームナーシング １）情報収集 ２）翌日の１日の計画立案 ３）受け持ち患者の看護計画の立案 ４）チームで看護をするために必要な情報共有、報告 ５）複数患者の業務の優先順位の判断 ５）複数患者への看護実践 ６）カンファレンス ７）メンバー同行
6	9	
7	9	
8	5	２．チームナーシング １）情報収集 ２）翌日の１日の計画立案 ３）受け持ち患者の看護計画の立案
9	9	２．チームナーシング １）情報収集 ２）翌日の１日の計画立案 ３）受け持ち患者の看護計画の立案 ４）チームで看護をするために必要な情報共有、報告 ５）複数患者の業務の優先順位の判断 ５）複数患者への看護実践 ６）カンファレンス ７）メンバー同行 実習最終日には、グループ各メンバーの学びを共有する。
10	9	
11	9	

【成績評価の方法】
実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校　授業要項　実務経験のある教員等による授業科目

科　目	障害をもちながら地域で生活する人の看護(領域横断実習)			担当講師	各実習担当教員
学　科　名	学　年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実　施　時　期
第一看護学科	２年	AB	２(70)	実習	令和６年後期

科目目標
１　障害をもつ人の地域での生活の実際と、法律に基づく自立支援サービスを理解する。
２　障害をもつ人との関わりを通してコミュニケーションの工夫や支援の実際を知る。
３　地域で生活を送る人を支える看護の役割や多職種連携の必要性について理解する。

授業概要
身体・精神・知的障害等、さまざまな障害のある人の生活や就労の場を見学しながら、個別性や多様性をふまえ、ありのまま理解する。障害の特徴をふまえた社会福祉サービスのしくみと実際や看護の役割を理解する。それぞれの実習場所での見学内容や体験を振り返り、障害を持ちながら地域で生活する人の理解と学びを共有する。

卒業時到達目標との関連
DP-　①・②・③・④・５・６・７・８・９・10・⑪・12

回数	時間数	授　業　内　容
1	9	「地域・在宅看護論」 リハビリテーション施設への見学実習 機能維持・回復に取り組む人々と在宅へ向けた支援の実際を知る
2	9	「地域・在宅看護論」 重度心身障害児施設での実習 重度心身障害者（児）における医療的ニードの高い人の生活の実際や看護を知る
3	9	「地域・在宅看護論」 相談支援事業所での実習 障害者と家族の地域での生活の実際や生活継続のための支援の実際を知る
4	9	「小児看護学」 児童発達支援センターや障害児入所施設での実習 障害をもち生活する児や家族の特徴と、成長・発達を支える支援を理解する
5	9	
6	9	「精神看護学実習」 就労支援施設での実習 障害をもちながら地域で働く人々に接し、その支援について理解する
7	9	
8	7	全体まとめ（学内） 障害をもちながら地域で生活する人の理解と実際の学びを共有する

【成績評価の方法】
実習評価表に基づいて評価を行う。
＊実習開始時、広島県の障害者支援内容を理解する講義と障害とともに生活されている人の体験談，就労支援施設での支援の実際について講義を予定している。